家　家にあらず。続くを以て家とす。
人　人にあらず。知るを以て人とす。

【大体の意味内容】家というものは、建物や家族がいさえすれば家ということではない。我が能藝の極意については一代一人に伝える大事であって、たとえ血のつながった我が子であっても、努力せず不勉強で本当の理解力・認識力を持たない者へは伝えてはいけない。だから最重要のことは紙に書き残さず、真に理解できる者にだけ、口伝えで教える。紙に残すと、努力しない者がそれを読んでしまった場合、大して理解していないのに分かった気になってしまうからだ。それが家の堕落の原因となる。極意を伝える相手が、血のつながらない赤の他人であってもかまわない。家とは、そうやって本物の本質が伝わり続けることを以て、家とするべきなのだ。血のつながりが重要なのではない。人は、年を取ればだれでも成人というわけではない。志を抱いて妥協せず努力し、学べば学ぶほど、知れば知るほど、自分の前には未知の大海が無限に広がっていることを知る。そうした「無知の知」の境地に達して、初めて人と成ることができる。

「スマホやゲームばかりしていると脳みそが変形してしまう」という研究結果も出ています。大して考えもせずにいろんなことができる気になってしまうし、電磁波に妙な刺激を受けて夜の睡眠に障害が起きたり、脳への悪影響がたくさん指摘されています。動画ばかりで楽に情報を頭に入れることに慣れてしまうと、マンガを読むこともできなくなるようです。当然読書をしても何もイメージがわかない。いまを生きる私たちの脳は、大変なピンチにさらされています。『１９８４年』という小説など、権力者に支配管理される社会を指摘した本たちは、そうやって娯楽を与えられどんどん脳が退化していく大衆が、家畜の様に権力者に支配される様子に警告を発しています。一見、生活の保障さえされれば、家畜の様に安定的に生かされる方が幸せでしょうか。「特に不自由なく生きられるのだからそれでいい」という人も大変多いです。たまたま生まれてから死ぬまでそれで不幸になったことはない、という人も少なくはないから、それでよいという意見もあるでしょう。ただ、何か取り返しのつかない危険を増大させ続けている気がします。私は、君たちと、「人に成る」道を歩みたいと願っています。